

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第二中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	・めざす学校像「一人一人が輝く活気と潤いのある学校」を踏まえ、校長の経営方針の下、全教職員の目標を連鎖させ、組織的に取り組んでいる。 ・生徒指導部会、教育相談部会、運営委員会を毎週1回実施することで、各分掌や担当教職員が情報を共有し、共通理解の下に教育活動を行っている。 ・「地域活動」は引き継ぎ特色ある活動として取り組んでいる。 ・栽培委員会を中心とした全校生徒による学級花壇整備や保護者協力によるPTA花壇整備、除草作業等実施したが、天候や時期に恵まれず十分な成果を上げることが難しかった。経験を持った教職員からの専門的な知識の伝承や働き方の変化に対する対応を今後検討していく必要を感じた。	A	・教職員の取り組み自体は評価できるが、保護者評価で「あまりそう思わない」「思わない」の合計が13%となっていることから、その理由を調査し、改善する余地がある。 ・二中の特色が薄れつつあるように感じる。もっと勤労学習に力点を置くべきではないか。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	・校内研修において、心肺蘇生法、エビベン対応の実技研修を実施すると共に、室息対応マニュアルを作成し対応を周知した。 ・避難訓練は年3回実施し従来の火災や地震発生時の想定、台風や豪雨等による浸水想定に加え、警察職員を招き別脱等を使った不審者対応の訓練を実施した。 ・いじめ根絶の取組として、心と生活アンケート(11月)、いじめアンケート(6月、2月)、オレンジリボンキャンペーン、人権学習、教育相談週間等を実施した。 ・いじめ防止対策基本方針に基づいた全教職員によるいじめ防止の意識の徹底を図った。	A	・生徒評価を見る限りでは「いじられる」児童は数名いるものの「いじめ」を受けているような回答はなかった。 ・「学校の安全や事故防止の指導に取組実績」に対する評価が若干低いことから、具体的な取組を考えて実行できると思われる。 ・受動的な避難訓練を実施するだけでなく、避難者用パーティションの設置方法、仮設水道の設置方法等、援助する側の訓練も行うと良い。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・全国学力・学習状況調査では、国語において3.9ポイント、数学において4.5ポイント上回り、概ね県や国より若干優位な結果となっている。また、埼玉県学力・学習状況調査では1年国語が県と比較して-1レベルだが、1年数学、2、3年国数英のレベルは概ね県の上昇率と同等か、若干優位な結果となっている。 ・調査結果の分析から、生徒全体としては基礎的・基本的な知識の定着が進んでいる。	A	・保護者評価の結果から、「あまりそう思わない」「思わない」の合計が24%で、保護者評価の中では最低値であるが、子供達自身は、基礎学力に関しては、教える側だけの問題ではなく、具体例を挙げてわかりやすいという回答が多い。個人差に関しては授業では難しいため、非常勤等による補講の必要性があると思われる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・一人一人に配布されたタブレット端末を活用し、主体的、対話的で深い学びを推進している。 ・長期休業中の学びの継続のために、AI学習ドリルの活用を図った。 ・校内研修では、「主体的・対話的で深い学びの実践」をテーマに、外部講師を招聘した研修会や各教科部会による指導法の研究を行った。	A	・生徒評価から、教員がそのクラスの生徒のあった授業を行っていることが理解できるが、それを難しく感じる生徒もいることが理解できる。ただし、一斉授業で全員に理解させること自体に無理があるため、努力という点ではA評価に値する。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・朝のあいさつ運動、集会時の無言入退場、清掃時の黙勤、授業評価オール5、完全下校時刻を守る取組、各種委員会のキャンペーン等、生徒が主体となる取組を通して達成感を感じ、自尊感情を高められるような活動を推進している。 ・生徒アンケートにおいて、「あなたは生活のきまりを守っていますか」の肯定的評価が95%、保護者アンケート「生活ルールや規律ある態度が身に付いているか」は85%であるが、生徒アンケート「あなたの学年は授業のルールを守っていますか」では56%と下がっている。学年としての規律ある態度の育成を推進していく。	B	・生徒の発達段階に応じた「規律ある態度」は身に付けていると思われるが、保護者評価をみると生徒個人や家庭の考え方に差があると思われる。 ・個人の意識は高く充実していると思われるが、一般社会でも全体行動は難しい。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	・職員生徒指導担当と生徒会役員が中心となって、校則等の見直しについて意見交換を実施し、生徒の声に基づいた学校ルールの策定を進めている。 ・教員の生徒指導委員会を毎月開催し、月ごとに生徒の委員会活動を活性化させることで、生徒が主体的に活動に取り組む、本校の実態に基づいた活動が活性化するよう工夫している。	A	・規則を守れない生徒についての記述があるが、きちんとできている生徒の意見にみられるように、それはあくまでも個々人の問題である。学校は委員会や部活等においても規律ある態度の大切さを教えていると思われる。 ・生徒個人の意識もあるが、家庭生活が重要である。 ・学校生活だけでは難しいのではないか。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	・体育委員会の取組として昼休みに校庭と体育館を開放している。各学級に用意しているクラスボールを用いて、サッカーやバレーボールなど、複数で運動を楽しんでいる様子が見られる。 ・部活動について、生徒アンケート「部活動は楽しくやりがいがある」の肯定的回答が89%、保護者アンケート「体育の授業や運動部活動等の運動に意欲的に取り組んでいる」が93%の回答が得られている。	A	・保護者評価は高いが教員の勤務時間や朝霞市の部活動の統廃合等の考慮が必要である。 ・学校行事の多さの観点から、体育部の大会参加を減らすべきである。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・新体力テストの結果は、男女各25項目において県平均を上回った項目は男女とも8項目、計16項目にとどまった。 ・新体力テスト種目別記録の掲示や体力課題をより一層意識した体育授業の実施など、生徒の意欲を喚起し体力向上に取り組んでいる。 ・保健委員会を中心に、熱中症や感染防止対策の注意喚起、生徒朝礼における呼びかけ、学校歯科医、衛生士と連携した歯科保健指導、学校保健委員会の開催、保護者と教師の会主催による助産師の方からの「性に関する講演会」などを行った。	B	・学校の自己評価と保護者の評価がほぼ同じだったため。健康診断等以外で学校独自の取組があれば、その具体例を周知していく必要がある。 ・熱中症アラートが出たからでなく、予め夏季の対策を考えておくべきではないか。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・保護者と教師の会や地域の方々と連携しながら、「二中鳴子 双葉」を実施した。5年ぶりに朝霞市民まつり「彩夏祭」に2日間参加した。 ・学生ボランティア、ジャグリング、部活動外部指導者の取組など、地域の人材を昨年度以上に活用することができた。 ・昨年度低下傾向であった保護者アンケート、「保護者や地域と連携して教育活動を行っている」では、3.5ポイント上昇、同じ項目で職員アンケートでは8.6ポイント上昇と回復してきた。	B	・学校の自己評価と保護者評価が近似であるためその評価を当てはめました。 ・保護者とは保護者会等でも意見交換等をしていると思いますが、地域との連携の部分が見えてきません。 ・夏季休業中等、地域の活動に積極的に参加して欲しい。 ・保護者会等の全体会では本音を出しづらいので、個別面談などの機会を利用して保護者の本音を聞き出して欲しい。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・保護者と教師の会を中心に、地域保護者、教員による校外パトロールを2度実施し、通学路の危険箇所の点検や市への要望を行った。 ・保護者アンケート「学校は保護者や地域と協力し合って、生徒の安全指導や健全育成に取り組んでいる」の肯定的意見が80.5%から85.0%に上昇した。職員アンケートでも同様には80.0%から85.7%となった。今後も一層の推進を継続したい。	B	・地域との連携がどのようになっているのかが見えてこない。 ・正門付近の雨後の泥水の処理などが自然乾燥に任せている点が気になる。積極的に美化に努めるべきではないか。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満